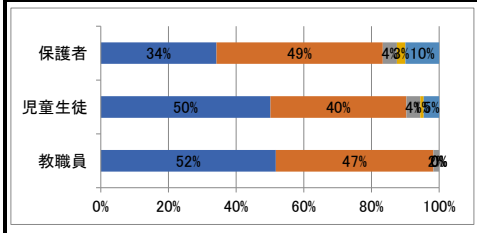
令和７年度　学　校　評　価

そう思う　どちらかといえば、そう思う　どちらかといえば、そう思わない　そう思わない　わからない

（１）主体的に考え行動する力を育む教育の推進

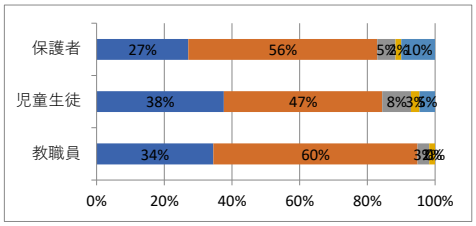
１豊かな心と健やかな体を育む教育の推進

学校は、豊かな心と健やかな体を育む教育の充実に努めていると思いますか。（感動・感謝、郷土愛、いのちを大切にする心、こどもの体力向上、基本的な生活習慣など）



２自ら学びに向かう力を育む教育の推進

学校は、こどもが自分で考え、自分から取り組む授業づくりに取り組んでいると思いますか。



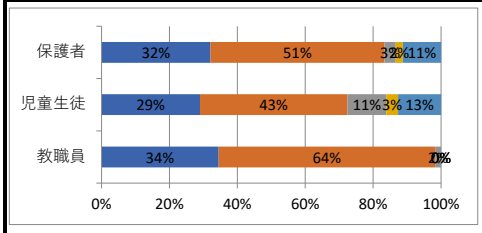
考察

「豊かな心と健やかな体を育む教育」では、児童の肯定的回答が昨年度の８割台から90%へと伸長した。特に教職員の肯定的回答（99%）が高く、学校組織として取り組むべき方向性が明確に共有されていると言える。「自ら学びに向かう力を育む教育」では、保護者・児童・教職員全て肯定的回答が昨年度から伸長した。自分で考え、課題に取り組む授業スタイルが定着しつつある。今後は、さらに思考を深める発問の工夫や、ICTを効果的に活用した自学自習の支援を継続していく。

（１）主体的に考え行動する力を育む教育の推進

３社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進

学校は、学校生活や地域社会をよりよくするために考えたり、行動したりするこどもの育成に、取り組んでいると思いますか。（児童会・生徒会活動、学校のきまり見直し、地域のよさを伝えたり課題解決したりする取組、ナイストライ（中学校）など）



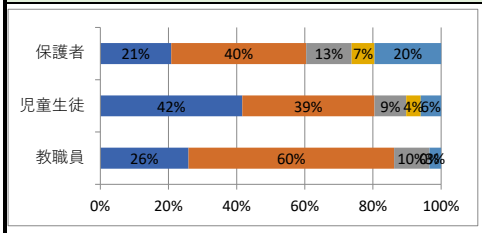
考察

「社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力」についても、保護者の肯定的回答が８割を超え、昨年度課題とされていた「家庭・地域への周知不足」が一定の改善を見せた。肯定的回答は増えているものの、活動が「教師主導」になっていないかの検証が必要である。児童が自分たちで学校の課題を見つけ、解決策を提案する特別活動の充実・強化を図っていきたい。地域の行事に参加するだけでなく、児童が地域の困りごとを解決し、地域の一員としての自覚をさらに深める活動を進めていきたい。

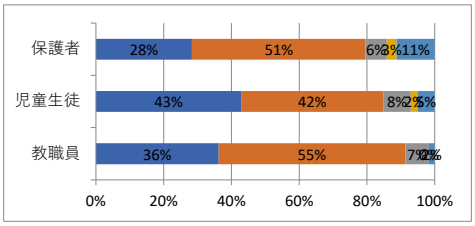
（２）こども一人一人を尊重した教育の推進

４５個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

学校は、こどもが、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学ぶ授業づくりを行っていると思いますか。



学校は、こどもが、対話などを通して、他の人の考えや意見を自分の学びに生かすような授業ができていると思いますか。



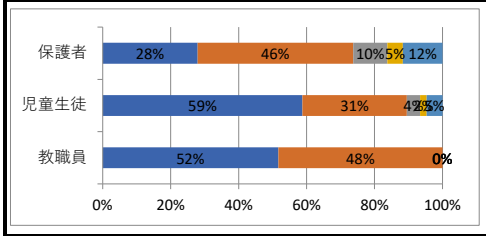
考察

「対話を学び（協働的学び）に生かす」項目では児童の85%が肯定しており、昨年度の成果を維持・向上させている。授業改善の重点項目であった昨年度の考察で掲げた「アウトプットを重視した授業」が現場で実践されている成果 といえる。一方で、自分のペースで学ぶ「個別最適な学び」については保護者の肯定的回答が６割に留まっており、学習の多様性を保障する授業デザインの更なる周知と実践が求められる。

（２）こども一人一人を尊重した教育の推進

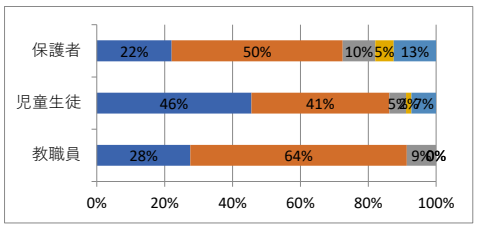
６特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実

学校には、こどもが助けを必要とするときに、先生や友達から支えてもらえる温かな雰囲気があると思いますか。



７インクルーシブ教育の推進

学校では、こどもがそれぞれの違いを認め、お互いを尊重し合って共に学び合っていると思いますか。



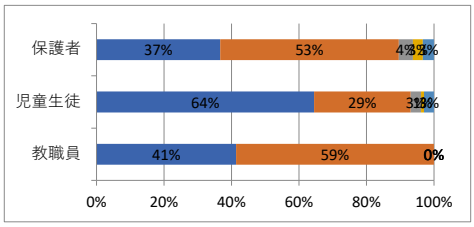
考察

「先生や友達に支えてもらえる雰囲気がある」という問いに対し、児童の肯定的回答が９割を超えている。心理的な安全性が確保された中で、個々の特性に応じた支援が機能している。「互いの違いを認め、尊重し合っている」という項目では、教職員の９割が肯定的回答をしている。学校全体として、多様性を認め合う土壌が成熟してきている。

（3）最適な教育環境の整備

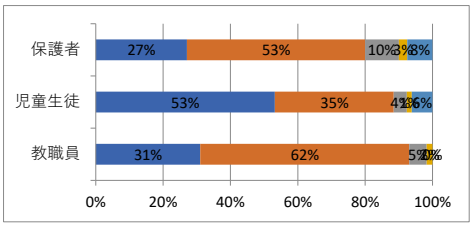
8 安全・安心な園づくりの推進

学校は、こどもの安全を守る環境の整備を進めるとともに、安全教育（生活・交通・防災など）に取り組んでいると思いますか。



9 地域や家庭と連携した教育環境の整備

学校は、地域や家庭の人と協力して、授業や行事などの教育活動を進めていると思いますか。

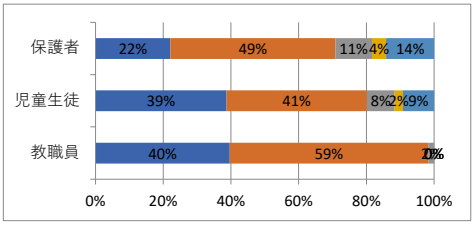


安全教育や防災・交通安全の取組に対し、保護者の90%が肯定的である。登下校の見守りや施設点検の継続が、安心感に繋がっている。地域と協力した教育活動について、保護者の80%が肯定的である。外部講師の活用や地域行事への参画を通じ、開かれた学校づくりが順調に進んでいる。

（4）こどものいのちと権利の擁護

10 こどもの最善の利益を守る環境づくり

学校は、こどもの意見を反映させ、こどもの権利を守るとともに、こどもや保護者が相談しやすい学校づくりに取り組んでいると思いますか。

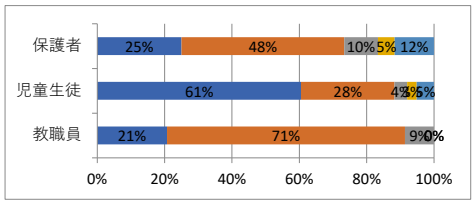


「こどもの意見を反映しているか」という問いへの保護者の肯定的回答は71%で、昨年度から横ばいである。児童が自分の意見を表明し、それが学校運営に反映される実感をより持てるよう、アンケートの活用や児童会との対話をさらに強化しフィードバックする仕組みを構築していきたい。また、「相談時間の確保」について、放課後や朝の時間の使い方を再考し、教職員がゆとりを持って児童と対話できる体制を物理的に確保することが急務である。

（5）本校の教育

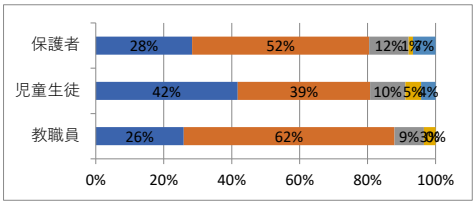
11 教育目標

学校は、教育方針や教育目標をこどもや保護者に分かりやすく示していると思いますか。



12 かしこく

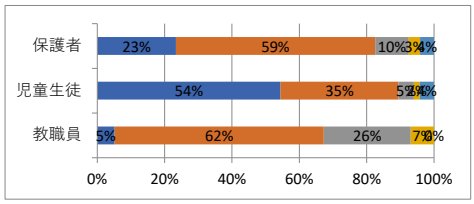
こどもは、めあてを持ったり、友だちと話し合ったり、進んで発表したりして、意欲的に学習に取り組んでいますか。



学校教育目標（かしこく・なかよく・たくましく）の浸透度について、保護者の「そう思う」が25%と微増した。今後も、学校だよりやHPを通じて、目標に沿った児童の具体的な姿を発信し続けたい。「かしこく」については、めあて学習を通じた授業改善により、児童の学習意欲は依然として高い。自分の考えをアウトプットする場面をさらに増やし、確かな学力の定着を目指す。

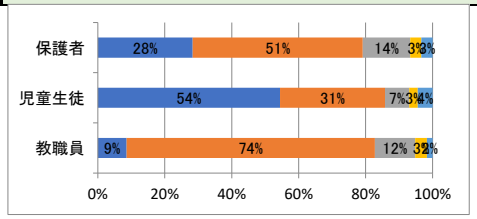
13 なかよく

こどもは、あいさつや返事、やさしい言葉遣いをしたりして、人と心豊かに関われていますか。



14 たくましく

こどもは、食事に気をつけたり、進んで運動をしたりして、健康的な生活ができていますか。



「なかよく」に関するSST（託束タイム等）の効果は継続しており、児童の8割以上が良好な人間関係を築けていると回答している。「たくましく」についても、外遊びの推奨や食育が功を奏し、健康意識が高まっている。学校教育目標を知っている保護者は増えているが、それが実際の子供の成長にどう結びついているかの実感（成果の共有）がまだ弱い印象である。

来　年　度　の　具　体　的　な　取　組　に　つ　い　て

〇「進んで学び探究するこども」に向けて、今年度成果が見られた「対話的な学び」を土台とし、さらに「個別最適な学び」との一体的な充実を図る授業改善を行う。AIドリル等、一人一人の興味関心に基づいた探究型学習の時間を検討・導入し、自ら学習方法を選択し調整する力を育成する。ICT機器を単なる提示用ではなく、児童が思考を整理し、自分なりの考えを表現・共有する「道具」として日常的に活用できるよう、職員研修を通して指導力を高める。一部教科担任制を継続し、専門性の高い教材研究に基づいた質の高い授業を展開する。

〇「なかよく助け合い励まし合うこども」に向けて、自他を尊重する心の育成と、自己有用感を高める教育を推進する。SST（託束タイム・たくトーク）を軸としたコミュニケーション能力の育成を継続しつつ、異学年交流をさらに活性化させ、多様な集団の中で自分の役割を果たす活動を充実させる。児童が自らの意見を学校運営に反映させ、自分たちの手で学校をより良くする経験を積めるよう、児童会活動の活性化や校則検討委員会への参画を推進する。いじめや人権侵害に対しては、組織的な早期発見・早期対応を徹底し、一人一人が大切にされる学校づくりに努める。

〇「たくましい心と健やかな体を持つこども」に向けて、自己の健康課題を自覚し、自ら健康管理ができる能力を育成する。体力テストの結果分析に基づき、体育の授業や外遊びの推奨による体力向上を図るとともに、食育や基本的な生活習慣の定着に向けた指導を行う。特に、睡眠やメディア接触時間、運動量について振り返る活動を取り入れ、改善しようとする態度を養う。事故防止のため、教職員と児童による定期的な安全点検に加え、児童自身が危険を予測し回避できるための段階的な安全教育を充実させる。

〇学校教育目標（かしこく・なかよく・たくましく）のさらなる浸透と、保護者との認識の共有を図るため、情報発信を多角化する。学校だよりやHPに加え、ICTを活用した日常的な活動の可視化を行い、学校の取組を「見える化」する。また、保護者が学校運営に参画するボランティアや意見交換の場を積極的に設け、家庭・地域と学校が一体となってこどもを育てる「共につくる学校経営」を推進し、地域課題の解決に主体的に関わる「地域とともに歩む学校」を目指す。

小　中　学　校　関　係　者　評　価

対話的な学びの定着により、明るい雰囲気で意見の出しやすい授業が展開され、教師と児童の良好な関係や学年ごとの成長が実感できる。
今後は楽しさだけでなく、テスト等による学力定着の確認が求められる。
生活面では礼儀正しい挨拶が見られる一方、登下校時の安全な歩行や始業時刻に遅れて登校する児童が固定化していることに課題がある。